



学校だより

「体をきたえる子」・「思いやりのある子」・「最後までやり抜く子」・「進んで学習する子」

令和 7 年 9 月 1 日

江戸川区立清新第一小学校

江戸川区清新町 1 - 4 - 1 9

校長 金木 圭一

NO.5

2 学期のスタートです

校長 金木 圭一

44 日間の夏季休業を終え、今日から 2 学期がスタートしました。1 学期の終業式では子供たちに、いろいろなことにチャレンジしてほしいという話をしました。普段取り組みたくても取組めないことや新たにやってみたくて思ったことなどにチャレンジできたでしょうか。一人一人にとって、この夏の経験が 2 学期に生かされることを期待しています。

▶ 防災の日にあたって

さて、本日は、防災の日です。東京消防庁のホームページでは、防災の日の由来が次のように記されています。

防災の日は、昭和 35 年（1960）年 6 月 11 日の閣議で、9 月 1 日を防災の日とすることが了解されたことに始まります。9 月 1 日を防災の日とした経緯は、以下のとおりです。

9 月 1 日は、関東大震災が発生した日であるとともに、暦の上では二百十日に当たり、台風シーズンを迎える時期でもあり、また、昭和 34（1959）年 9 月 26 日の「伊勢湾台風」によって、戦後最大の被害（全半壊・流失家屋 15 万 3,893 戸、浸水家屋 36 万 3,611 戸、死者 4,700 人、行方不明 401 人、傷者 3 万 8,917 人）を被ったことが契機となって、地震や風水害等に対する心構え等を育成するため、防災の日が創設されました。（以下、省略）

また、内閣府の防災情報のページによりますと、1923（大正 12）年 9 月 1 日（土）午前 11 時 58 分に発生しました関東大震災では、地震規模マグニチュード M7.9、約 10 万 5 千人の方がお亡くなりになられたり、行方不明になられたりしました。

東京都防災会議では、都心南部直下地震や多摩東部直下地震といった首都直下地震は、令和 4 年以降 30 年以内に 70%の確率で発生すると予想されています。学校では、毎月、地震や火災等を想定した避難訓練を学級全員で生活しているときや友達と又は一人でいるときなど時間帯を変え、どのように行動するかを考え、自分の身を自分で守ることができるよう指導をしています。また、本校では、震度 5 強以上の場合は、原則、保護者が引き取るまで学校で待機をさせます。震度 5 弱以下の場合は原則下校といたしますが、公共交通機関がマヒした場合は、震度 5 強以上と同様の対応をします。本日の訓練もその一環です。さらに、夏季休業中からプール横にマンホールトイレの設置工事（9 月末完了予定）も行い、災害時に備えた準備をしています。

しかし、お子様が一人でいたり、遊びに行っていたりしている際に、大規模な地震が発生する場合があります。そのような場合は、どのように保護者とお子様で連絡をとるか、また、どこに避難し、どこで待ち合わせるかなど、ぜひ、防災週間（9 月 5 日まで）のこの機会に、ご家庭で確認していただけたらと思います。

▶ 学びと集団の深まりの 2 学期

学校の 1 年間は、次のような時期と言えます。

「1 学期は学級づくりの時期、2 学期は学びと集団の深まりの時期、3 学期はまとめと次への準備の時期」

最も長い 2 学期、学びと集団の深まりは、教員と子供たちで作上げていかななくてはなりません。1 学期間、各学級での授業の様子を見てみると、徐々に授業の質が向上してきたかなと捉えています。しかし、将来を生きる子供たちにとって、今、身に付けなければならない学習内容と将来に活用できる学習方法の両面からのアプローチが授業には求められます。各教員の授業に対する不断の努力なくして、学びの深まりは得られません。また、運動会等の 1 学期の学校行事を通じて培った学年・学級集団の深化を図るには、当番活動や係活動、相手を思いやる言動など、日常活動の充実が欠かせません。

全教職員が、子供たちへの授業や人間関係づくりに寄り添いながら、深まりのある 2 学期にしていきたいと考えています。保護者の皆様、地域の皆様、本校の教育活動への引き続きのご理解、ご協力を賜りますよう、お願いいたします。